

吉日

テーマ

診査・診断に基づく治療

平素は会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の例会では通常の会員発表、衛生士発表に加えて、はじめての取り組みとしてインストラクター藤原 康則先生、認定歯科技工士 古家豊先生、ふじわら歯科クリニック歯科衛生士の宇都宮千沙の3者コラボレーション発表を予定しております。また、インストラクター発表では咬合療法研究会会長の国賀 就一郎先生を予定しており咬合療法の真髄を解く発表となっております。筒井照子先生の基調講演では絶えず新たな内容を講演していただく予定となっております非常に濃密な内容となっております。咬合療法の経験の浅い方から経験豊かな方まで興味深い例会になり、今回の例会を通じて明日からの臨床に活かせることを何か一つでも持って帰っていただけたらと考えております。スタッフの方々同伴の上、ふるってご参加下さい。

支部長 藤田 亨

日時 平成27年 3月15日(日) AM10:00~(受付AM9:30~)

場所 兵庫県歯科医師会館 5階

住所 〒650-0003 神戸市中央区山本通5丁目7番18号 TEL.078-351-4181(代表)

参加費 会員 Dr5000円 非会員 8000円 会員 Drの勤務医 4000円 スタッフ 3000円

[弁当代込]←事前申し込みの方に限りお弁当を用意します

タイムスケジュール

- 9:30~ 受付開始
- 10:00~10:05 開会の挨拶 筒井照子先生・藤田亨先生
- 10:05~10:35 会員発表「幡中 寿之先生(質疑応答込30分)」 座長 任 順興 先生
- 10:35~11:05 会員発表「歯科衛生士 山内彩可(質疑応答込30分)」座長 坂口 雄一 先生
- 11:05~12:05 インストラクター発表「国賀 就一郎先生(質疑応答込60分)」
座長 常深 伸介 先生
- 12:05~13:05 ~昼休憩~
- 13:05~15:05 「藤原 康則先生、DT 古家 豊、DH 宇都宮 千沙 (質疑応答込120分)」
座長 藤田 幸彦 先生
- 休憩5分
- 15:10~16:40 <<基調講演>> 筒井 照子先生 90分
- 16:40 閉会の挨拶 会長 藤田 亨 先生

3月9日（月）までに「ふじわら歯科クリニック」

担当：谷 sp6t32w9@jewel.ocn.ne.jp までご返事いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

FAX 075-952-1466

「FAXは午前9時半から午後9時」の時間内でお願いします

ご出席 ～過去に咬合療法受講歴の有無に○を付けて下さい～

歯科医院名

(有無歴) ↓

会員 Dr 氏名	有・無	計	名
会員 Dr 勤務医氏名	有・無	計	名
会員外 Dr 氏名	有・無	計	名

DH・DT・DA [コデンタルスタッフ]

氏名	有・無	
・	有・無	
・	有・無	
・	有・無	
・	有・無	計 名

当日名簿を作成しますので、お手数ですが氏名のご記入をお願いいたします。

※症例相談希望される先生は9時半～または空いた時間でインストラクターが症例相談を受けますので希望の方は症例準備してお越しください。

抄録

演題・・・「咬合療法を学びながら取り組んだ上顎総義歯の1症例」

坂口歯科クリニック 幡中 寿之

歯科医師となり7年目の春に、現在の勤務先で咬合療法と出会うことが出来、自分の中の臨床が大きく変わりました。すなわち、歯科治療に対する考えの浅はかさに気づきました。また、自らの診療において、「現在の口腔内に至った原因」を考えて診断し、治療を行うようになりました。まだまだ、手探りの中ではありますが、今回、自分なりに咬合療法を臨床に取り入れて治療を行った症例を報告させていただきます。自分の中の治療に対する考え方の変化をお伝え出来れば幸いです。ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

演題・・・「包括歯科臨床の実践(Dr/DT/DHのコミュニケーションを考える)」

ふじわら歯科クリニック 藤原 康則

包括歯科臨床において、stomatologyとdentistryをいかに両立させて臨床を行うかが重要なことであることは、すでにだれもが考えていることである。当然態癖指導やME機器などの評価を経て慎重にすすめていくのであるが、補綴治療が必要なケースにおいて患者の希望や社会的背景などの理由からいろいろな制約をうけることがある。その中でも臨床家は最善の道を探りよりよい結果を残さなくてはならない。

今回、数年私が特に力をいれて取り組んでいる「矯正的挺出」と「審美修復」をテーマに焦点をしぼり、その中でチェアサイドとラボサイドがどのようにコミュニケーションをとるべきかということ、更には歯科衛生士の観点から審美的な補綴物を口腔内で長期にメンテナンスするための意見をまじえながら、臨床におけるの注意点と反省点をふまえて発表させていただきます。

演題・・・咬合再構成症例の光と影 ～生理学的咬合論からの再評価～

兵庫県明石市開業 国賀 就一郎

近年、歯科界一般に咬合再構成において包括歯科という言葉が散見され、顎関節症・咀嚼運動にも関心が高まっている感があるが、生理学的咬合論の臨床応用という観点からみると、再構成症例の実際の臨床的評価は十分とはいえない状況と思われる。

そこで1998年に包括歯科臨床に取り組んで以来17年間の自験例を通して、現在の考え方と生理学的咬合論に基づく咬合再構成症例の再評価から、長期安定的な予後を得るための要点を整理し報告する。